

# 「田舎暮らし駒ヶ根推進協議会」ニュース

第8号  
平成24年11月1日発行

## 「田舎暮らし先進地 南アルプス市・山梨市」へ視察研修に行ってきました



南アルプス市 クラインガルテン 山梨市職員による説明 山梨市 お試し住宅

- 開催日 10月16日(火)
- 参加者 16名
- 視察地 南アルプス市  
山梨市
- 内容 クラインガルテン  
空家バンク制度  
お試し住宅

### 参加報告

幹事 石田建設株式会社 石田耕一

南アルプス市の田舎暮らしを求める方々への取り組みとして、クラインガルテン（家庭菜園付貸別荘）に対する動きは、行政あげて非常に積極的に取り組んでいることに驚きました。この伊那谷でも農業法人ベースで取り組んでいるところがありますが、実際に契約して来られる方にとっては行政が主導的に行くことで安心感があり、公共の事業性も高まるので、ぜひ駒ヶ根でも取り組んでいただければと感じました。ただ、20年後の借地契約が終わる時点での姿がぼやけていたのが少々不安を感じた次第です。

空き家バンクの取り組みも平成19年頃より研究を始め、現在売却・賃貸あわせて33件が契約になり、移住される方への大きな手助けになっていると思われました。売買代金も1億9千万円を超える額となっており、経済の波及効果もあるように思います。問題は提供できる家が徐々に減ってくるので、空き家を有効に利用するという文化も必要だと感じた次第です。できることから駒ヶ根でも取組めればよいと思います。山梨市でも空き家バンクは積極的に展開されています。お試し住宅は、少々山の中という感じでしたので、駒ヶ根で実施するなら見晴らしのよい場所のログハウスでもあれば最高だと思った次第です。それにつけても、それぞれの行政の皆さんの親切な対応は本当にありがたく感じました。

## 長野朝日放送「みつめて!信州生テレビ」で協議会の活動が紹介されました

「信州で暮らす」をテーマに9月29日に生放送された番組内で、駒ヶ根市の移住の取組みが紹介され、協議会の紹介コーナーでは小澤幹事長のコメントが放送されました。また、移住者の生活を紹介するコーナーでは、幹事&アドバイザーの有馬正道さんの駒ヶ根移住後のいきいきとして活動的な日々の様子が紹介されました。



### 今後の予定

セミナー&相談会 in 東京有楽町 … 11月17日  
 田舎暮らし相談会 in 名古屋 … 2月2日  
 信州駒ヶ根「冬」体感 … 2月9・10日  
 セミナー&相談会 in 東京有楽町 … 3月2日

**編集後記** 会員の皆様の積極的な活動のおかげで、今年度駒ヶ根市へ移住を決定された方は3組7名、他にも2組の方が「駒ヶ根移住」を前向きに考えていらっしゃるようです。活動の成果がでてくると、今後の方向性も自然に見えてくるように感じます。活動内容につきまして、皆様のご意見、アイデアをお待ちしております。(事務局)

## 協働のまち 南アルプスクラインガルテン ～会員制滞在型市民農園視察研修から学ぶ～

幹事/アドバイザー 有馬正道

南アルプス農鳥岳の東に位置する楯形山の裾野に、私たちが視察研修先として目指した南アルプス市があった。クラインガルテンとはドイツ語で「小さな庭」を意味する家庭菜園のことである。1区画の敷地面積が470～500㎡の中に約47㎡のいかにもこぢんまりとした規模とはいえ、オール電化仕様、シックハウス症候群対策の内装材使用のフローリング洋間、インターネットも利用可能なケーブルテレビ端子設置など、都市生活者のニーズにも充分対応できるラウベ\*1が用意され、農機具置場や屋外洗場まである心憎いほどの設備と、ラウベを取り巻くように、ガルテナー\*2が自由に造れる庭、菜園、花壇が配置され、区画内の小径にはウッドチップが敷きつめられ、ガルテナーが滞在を始めると同時に「田舎暮らし」を実感できる状態となっている。

市の担当課による説明においても、平成21年4月にオープンした、サクランボ・桃・ブドウ果樹園と農地に囲まれた「中野エリア」17区画は、競争率4.18倍、2年後の平成23年4月にオープンした、眼下に南アルプス市街地を望み、南方向に富士山を眺望できる緩やかな傾斜地にある「湯沢エリア」13区画の競争率は3.77倍で、応募者の大半が首都圏での生活者であり、設定された生活環境がいかに都市生活者のニーズに合致したかを示すものとなっている。

駒ヶ根市への定住促進により、減少傾向にある人口の増加と、地域経済の活性化を目的に設立された当協議会の今後の活動を展望するうえから、感想を述べてみたい。

### 1. 中山間地域における独自の事業創成期における、中・長期の事業計画の策定

資料と説明によれば、農水省の「元気な地域づくり計画」の認定取得を目標に、平成18年度から「滞在型市民農園」に係る基本計画書が作成され、地元住民への説明をはじめ、開発エリアの確定、地権者との協議が開始されている。計画策定から昨年4月の湯沢エリアオープンまで実に6年の歳月をかけ、その間に各エリアの実施設計、造成工事の発注、利用者の募集開始、エリアの管理・運営の組織作り等が綿密に計画・実施されている。

### 2. 「会員制滞在型市民農園」開設に当たっての目標設定

南アルプス市では同農園の開設に当たり、都市生活者の人々に求められる農村地域の新しい役割を担う事業を目指し、4つの明確な確固とした目標が掲げられている。

- ① 遊休農地を活用し農地を守っていくこと
- ② 農を愛する地元の農家と都市生活者の方々との交流によって、農村地域に新たな活力が生まれること
- ③ 都市生活者の方々に、美しい菜園生活という幸せな暮らしを提供すること
- ④ 都市生活者の方々に、この地を第二の郷里として親しんでいただくこと

### 3. ガルテナーの入会金・使用料が雇用創出等となって地元住民へ還元されている

同農園の管理については、当面市の直営となっているものの、注目しなければならないことは、全面的かつ多方面にわたって、地元住民の協力によって管理運営や交流促進が図られていることである。同時にガルテナー負担の入会金40万円及び年間使用料40万円によって、地権者への借地料、スタッフ報酬となって地元へ還元されていることである。

- ① 地権者への年間借地料 … 20円/㎡ (借地期間20年・開発地全てが借地)
- ② 年額報酬 … エリア支配人40万円 エリアリーダー80万円 お世話役農家12万円 (管理スタッフ35名)

### 4. 採算性がとれている

平成23年度決算資料による収支	
① 収入	年間使用料 <u>1,200万円</u> (40万円×30区画)
② 支出	報酬等 703万円
	委託料 184万円 (浄化槽管理等)
	借地料 95万円
	その他 128万円
	<u>計 1,110万円</u>



### 5. 年間行事の計画・実施は、ガルテナー等の自主性に任されている

平成24年度の行事予定によると、開園祭、夕涼み会、収穫祭の三大行事をはじめとして、年間を通じ農業講習会、盆踊り大会、防災訓練、運動会、どんど焼きなどの地域行事と、ガルテナー独自の「クラブ活動」が目白押しとなっている。注目すべきは、これらの年間行事が一部を除き、ガルテナーと支配人、エリアリーダー、お世話役農家等の管理スタッフによって自主的に計画立案・運営がなされ、一部を除き会費等はきちんと徴収されていることである。

以上、研修視察に当たってのいくつかの感想と教訓を述べさせていただいたが、南アルプス市が中山間地域の目指す新たな試みとして実施した「南アルプスクラインガルテン」構想による地域全体への経済波及効果や、地域住民と都市生活者との交流によって得られた双方の成果には計り知れないものがあるに違いないと思う。数年後、同事業の立案・計画時から10年を経過することになるが、南アルプス市・地域住民・利用者による「会員制滞在型市民農園」事業への積極的な総括・分析を心から期待したい。

\*1…滞在型宿泊施設 \*2…クラインガルテン利用者